



平成 22 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 三菱瓦斯化学株式会社
 代表者名 取締役社長 酒井 和夫
 (コード番号:4182 東証第一部)
 問合せ先 広報 I R 部長 北川 元康
 (Tel: 03-3283-5041)

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (連結・個別) 業績予想との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 7 月 30 日に公表した平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結及び個別業績予想と、
 本日発表の同期業績に差異が生じたのでお知らせ致します。

また、最近の業績動向等を踏まえ、同日付にて公表した平成 23 年 3 月期通期の連結及び個別業
 績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせ致します。

記

1. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異

(1) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想との差異

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 7 月 30 日発表)	百万円 230,000	百万円 10,000	百万円 13,000	百万円 7,000	円 銭 15 49
第 2 四半期累計実績 (B)	227,054	12,616	17,276	6,392	14 14
増減額 (B - A)	△2,945	2,616	4,276	△607	—
増減率 (%)	△1.3	26.2	32.9	△8.7	—
前第 2 四半期 連結累計期間実績	180,770	△1,101	△2,592	△2,433	△5 38

(2) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績予想との差異

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 7 月 30 日発表)	百万円 160,000	百万円 1,500	百万円 4,500	百万円 2,000	円 銭 4 42
第 2 四半期累計実績 (B)	161,207	3,079	6,559	△718	△1 57
増減額 (B - A)	1,207	1,579	2,059	△2,718	—
増減率 (%)	0.8	105.3	45.8	—	—
前第 2 四半期 累計期間実績	130,550	△6,136	△3,656	△712	△1 58

2. 平成23年3月期通期業績予想の修正

(1) 平成23年3月期通期の連結業績予想の修正

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成22年7月30日発表)	百万円 460,000	百万円 20,000	百万円 27,000	百万円 17,000	円 銭 37 61
今回修正発表 (B)	445,000	21,000	30,000	15,000	33 18
増減額 (B - A)	△15,000	1,000	3,000	△2,000	—
増減率 (%)	△3.3	5.0	11.1	△11.8	—
前期実績	384,528	4,090	7,365	5,827	12 89

(2) 平成23年3月期通期の個別業績予想の修正

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成22年7月30日発表)	百万円 330,000	百万円 6,000	百万円 11,500	百万円 8,000	円 銭 17 70
今回修正発表 (B)	330,000	7,500	14,000	5,000	11 06
増減額 (B - A)	0	1,500	2,500	△3,000	—
増減率 (%)	0.0	25.0	21.7	△37.5	—
前期実績	278,955	△7,225	307	4,578	10 13

3. 修正理由

第2四半期累計期間の個別業績は、芳香族化学品事業の販売数量増加や原料コスト改善、受取配当金の増加などにより、また、連結業績については、個別業績の改善に加え、持分法利益が増加したことから、前回業績予想（平成22年7月30日発表）を上回りました。しかし、投資有価証券評価損6,444百万円を特別損失として計上したため、四半期純利益は、個別、連結とも前回業績予想を下回る結果となりました。

通期業績予想は、営業利益、経常利益とも前回業績予想を上回る見通しですが、円高による採算悪化や半導体・液晶向け材料などの販売数量減少、メタノール市況の下落による持分法利益の減少などが懸念されることから、下期は対上期で減益となることを見込んでおります。なお、通期の業績予想には、当第2四半期会計期間末に特別損失として計上した投資有価証券評価損をそのまま織り込んでいるため、個別、連結とも、当期純利益は前回業績予想を下回る見込みとしております。

注：投資有価証券の期中評価については洗替方式を採用しております。

以 上

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。